

関西広域農林水産業ビジョン（令和6年3月改訂）の概要

現状認識

【特徴】

歴史と伝統ある食文化

- ・ 関西農林水産業は食文化と共に発展し域内消費地へ食料を供給

多様な農林水産物

- ・ 域内には高品質で魅力的な農林水産物が多く存在

大消費地が内在

- ・ 都市と農山漁村の距離が近い
- ・ 企業や大学の研究拠点多い

【情勢の変化】

- ・ 持続可能性についての関心の高まり、デジタル技術の進歩やライフスタイルの変化
- ・ 和食が世界に定着し、醤油等の調味料をはじめ日本食品に対する海外の需要は着実に拡大

【課題】

所得の不安定化

- ・ 国内市場の縮小、コストの増大、気候変動、家畜疾病など

就業者の減少・高齢化

- ・ 生産年齢人口の減少
- ・ 経営継承に課題

生産基盤の弱体化

- ・ 過疎化や耕作放棄地の増加
- ・ 木材価格低迷、水産資源減少

【対応方針】

- ・ 関西が優位性を持つ農林水産物等の海外への更なる販路拡大
- ・ 消費者ニーズに応えた農林水産物の安定供給

- ・ 後継者、新規参入者、二地域居住や副業など様々な形での就業者の確保
- ・ 生産性の向上に資するスマート農林水産業技術の実装などの推進

- ・ 関係人口や交流人口の拡大
- ・ 優良農地の確保
- ・ 林業・木材産業の収益性向上
- ・ 水産資源の維持、回復
- ・ 持続可能な農林水産業の推進

将来像（おおむね2040年度）

歴史と伝統ある関西の食文化を支える農林水産業

- 多様な農林水産物の域内への供給が更に拡大
- 関西の食文化を積極的に支えつつ、持続的に発展する農林水産業を実現

競争力のある魅力的な農林水産業

- 海外への販路拡大、農山漁村発イノベーション、スマート農林水産業の実装等が進展
- 人材の育成確保などが進み、経営に意欲のある者が農山漁村で活躍

都市と共生・交流する活力溢れる農林水産業・農山漁村

- 交流や滞在を通じて、農山漁村の魅力を都市住民と共有する機会が増加
- 関係人口や交流人口が増え、都市と農山漁村で「人、もの、情報」の往来が拡大

戦 略（今後5年程度）

戦略1 地産地消運動の推進による域内消費拡大

- ・ 域内農林水産物の企業及び学校における利活用や直売所間交流の促進を図る

戦略2 国内外への農林水産物の販路拡大

- ・ 商談機会の創出や食品輸出の機運醸成を図る

戦略3 農林水産業の競争力強化

- ・ 異業種や異分野との連携促進による新たな商品づくりを進める

戦略4 農林水産業を担う人材の育成・確保

- ・ 就業支援情報の発信や農業大学校・林業大学校における越境入学者の受入促進を図る

戦略5 都市との交流による農山漁村の活性化

- ・ 農山漁村のもつ豊かな地域資源の魅力発信による交流人口の増加を図る

構成府県市との連携

- ・ 関西広域連合は大きなシナジー効果が見込まれる事業等を実施
- ・ 各地域の特徴・実情を踏まえた事業については、引き続き個々の構成府県市が実施